

酸性土壌の改良は 効果とコストで賢く選ぶ！

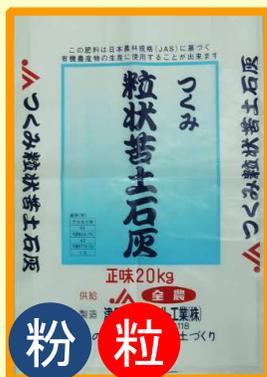
■炭酸カルシウム(タンカル)



土のpHを上げます。

Ca の補給
カルシウム

■苦土石灰



土のpHを上げます。

Ca **Mg** の補給
カルシウム マグネシウム

■BMようりん



土のpHを上げます。

Ca **Mg** **P** の補給
カルシウム マグネシウム リン酸

■ 成分 (%)

肥料名	アルカリ分	カルシウム	マグネシウム	リンサン	ケイ酸	ホウ素	マンガン
炭酸カルシウム	53	53					
苦土石灰	55	42	10				
BMようりん	45	30	12	20	20	0.5	1

■ 特長と選択のポイント

- 炭酸カルシウム、苦土石灰、BMようりんは、いずれもアルカリ性肥料なので、酸性土壌を作物栽培に適したpHに整える効果があります。
- 苦土石灰、BMようりんの**マグネシウムは流亡しにくい成分**です。
- 使用目的(pHを上げたいのか？補給する成分は？)と肥料コストを考慮して、これらの肥料のなかから選択してください。

■ 使い方

- 酸性土壌のpHを整える。(国頭マージ、改良目標 pH6.0)

pH 4.0	pH 4.5	pH 5.0	pH 5.5
25袋	20袋	15袋	8袋

- ・107ール(300坪)、深さ20cmを改良する炭酸カルシウム必要量です。
- ・**苦土石灰、BMようりに置き換える場合も、概ね上記の使用量となります。**
- ・土壌診断を受けている場合は、その改良処方箋に従ってください。

- 肥料の組み合わせを変更する。
以下の事例のpHを上げる効果、肥料成分の補給量はほぼ同じです。

苦土石灰 5袋 ⇔ 炭酸カルシウム 5袋 + 硫マグ 2袋

BMようりん 5袋 ⇔ 炭酸カルシウム 5袋 + 硫マグ 2袋 + 過リン酸石灰 5袋

例えば・・・

土壌診断の結果、pH5.0であった。

そこで、pH6.0までpH改良し、且つマグネシウム10kgも補給する。

例① 炭酸カルシウム 15袋、硫マグ 2袋 ……計17袋

例② 炭酸カルシウム 10袋、**苦土石灰 5袋** ……計**15袋**

※事例①と②はpH改良効果と成分補給量は、ほぼ同じです。

※肥料コストは、事例①を100とした場合、事例②は 約90。